

戦後日本におけるアメリカニズムと権力 ：日本人を「親米」にする〈力〉とは何か

吉見俊哉
東京大学大学院情報学環

東京大学公開講座
2007.10.20

†:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。引用情報のない図版は、講演者の有する著作物の中から引用されたものです。

戦後日本は親米社会？

●イラク戦前後での米国への好感:

- 2002年(朝日新聞) アメリカが好き:
日本 72% 韓国 53%
- 2006年(読売新聞) アメリカが好き:
日本 63% 英国56% フランス39%
ドイツ 37% トルコ 12%

●戦後を通じた米国への好感:

- 好きな国・嫌いな国(時事通信)
1960年 アメリカ好き 47% 嫌い 6%
ソ連好き 3% 嫌い 50%
- 親しみを感じる国(総理府)
米国:1980年 77% →2005年 73%
中国:1980年 79% →2005年 32%

図1 アメリカに対する親近感

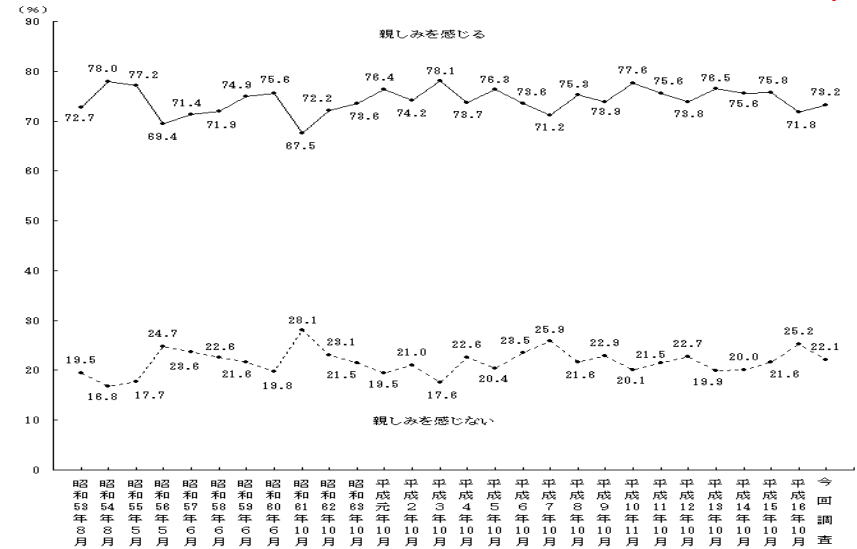
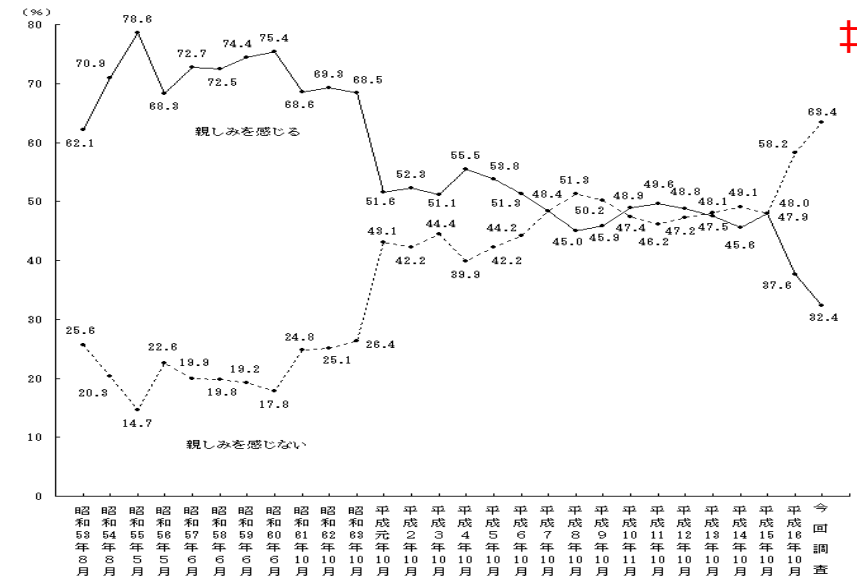


図5 中国に対する親近感



なぜ、戦後日本はこれほど親米的なのか？

- 「ハリウッドと大衆消費社会の魅力」説
←アメリカ的消費文化の影響は世界的で日本だけが特殊ではない。
- 「戦後復興はアメリカのおかげ」説
←日本人は、それほどまでに「忘れっぽくない」のか？
- 「戦後日本はアメリカに骨抜きにされた」説
←戦後におけるアメリカの軍事的支配は東北アジア全域（中東地域における「親米」の困難）。
+戦前と戦後の連続性を見えなくしてしまう（「戦前」の美化）
- 「アメリカ」という他者こそが、戦後日本人のアイデンティティ（存在の心地よさ）を可能にしてきたのでは？
 - 東アジアにおける日本のポジション：
米国の軍事経済的ヘゲモニーの下での維持 ←冷戦体制

「アメリカ」の〈力〉とは何か

- 〈暴力〉としてのアメリカ: AがBを力づくで従わせる
「基地」を拠点にした世界大の軍事ネットワーク
(アジアにおける基地配備、旧日本の軍事拠点からの連続)
- 〈影響力〉としてのアメリカ: AがBに利益を与えつつ従わせる
「ドル」と「技術」の世界化 (自由市場のイデオロギー)
(アジアへの「豊かさ」のばら撒きとしての「開発」)
- 〈まなざし〉としてのアメリカ
: Bが自覚なしに自ら望んでAの観点に沿った行動をする
文化的表象とメディアにおけるアメリカニズムの作動
(商品としての大衆文化の国境を越えた流通、映画と音楽)

→アメリカの〈力〉＝〈まなざし／影響力／暴力〉の複合的な力

他者としての「アメリカ」へのまなざし

- 地域研究における「アメリカニズム」の定義：
「アメリカ人一般の国民生活を根本的に規定し、結果としてアメリカの国民社会全体を方向づけてきた特異な価値観やものの見方」(古谷旬)
- 20世紀における「アメリカ」の世界化(「特殊」から「普遍」へ)
- アメリカ化の二重構造(世界性としてのアメリカ)
 - 19世紀末以降:到来する移民の文化的・言語的「アメリカ化」
←輸出可能な「普遍」としてのアメリカニズム(本質主義的規定)
 - 1920年代以降:世界各地の文化の市場を通じた「アメリカ化」
←「アメリカ」を受容／拒絶していくまなざし(関係主義的規定)
- 「アメリカニズム」のもう一つの定義：
世界各地において、他者としての「アメリカ」に向けられ、それぞれの地域の日常生活や大衆文化を方向づけていくまなざしの構造
cf. サイドによるオリエンタリズムの再定義(他者としての「東洋」)

近代日本における3つのアメリカニズム時代

1. 幕末・維新时期:「自由の国」としてのアメリカ

:自由民権運動・福澤諭吉→内村鑑三→有島武郎 :内面化

2. 大正・昭和モダニズム期:ハリウツド的消費文化の流入

室伏高信(1929)「アメリカ」としての日本(ドルの世界支配)

「今や、アメリカ的でない日本がどこにあるか。アメリカを離れて日本が存在するか。アメリカ的でない生活がわれわれのどこに残っているか。私は断言する。アメリカが世界であるばかりではない。今日は日本もまたアメリカのほか何でもなかったということ。」

新居格 (1929)「カクテル文化」の時代

安藤更生(1931)「銀座」:フランス趣味→アメリカ趣味

大宅壮一(1929)東京＝西欧文明→大阪＝アメリカ文化

3. 占領期以降:規範的な「他者」としてのアメリカの構築

分析のレベル:①国家の表象／②都市の表象／③家庭の表象

←天皇制(国民国家体制)の盛衰(強弱)と反比例する傾向

占領期におけるマッカーサーの現前と不在

- マッカーサーの厚木到着(1945年8月30日)
→翌日の新聞にはタラップ上の写真は掲載されていない
「サングラスとコーパイプのマッカーサー」はいつ登場したのか？
- 新聞におけるマッカーサーの視覚的イメージの極度の貧困
⇔フィリピンでのマッカーサー像の顕在
(日本占領での意図的な自制)
→「人間天皇」の前面化
⇔マッカーサー像の不在化と比例
- 検閲による「米軍」の消去
→まるで「占領／米軍」など存在しないかのようなリアリティの演出

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

マッカーサー 写真

会見写真は「敗戦のシンボル」か？

- 会見写真(1945年9月27日)
 - 長身の元帥 ⇔ 小柄な天皇
 - 年長の元帥 ⇔ 若年の天皇
 - 普段着の元帥 ⇔ 正装の天皇
 - リラックスした元帥 ⇔ 直立不動の天皇
 - 「男性的」な元帥 ⇔ 「女性的」な天皇
- 会見写真は、戦後日米関係の象徴？
 - ← ？内閣情報局の「発禁」の理由
 - ？新聞間の写真と記事の取り扱いの差
 - ？3枚の会見写真の微妙な違い
- 写真からどこまで「解釈」が可能であったのか(同時代における受容の多面性)
 - 「一部ニ陛下ノ尊嚴ヲ失墜セルモノトシテ 不満ノ意ヲ洩セルモノアルモ、多クハ御聖慮ヲ拝察シ奉リ恐懼感激シ……」
- いつ、どのようにして写真の「解釈」が確定したのか(読まれる文脈の歴史性)



「人間天皇」の巡幸と「私が天皇」症候群

- 昭和天皇の地方巡幸(1946～50)

←マッカーサーの後景化

「天皇と国民とが新たな関係表現や相互儀礼を実験し学習してゆく過程」

? ローカル・コミュニティのレベルでの天皇巡幸受容の戦前＝戦後の連続性
(地方紙の報道、M・ゲインの観察)

- 偽天皇とゴシップ的語りの増殖

- 名乗りを挙げた「天皇」たち

(3人の熊沢天皇、葛尾天皇、酒本天皇、長浜天皇…30数人)

- 占領期雑誌における「天皇」報道

「ヒロヒト一家の配給生活探訪記」「やっぱり天皇は箒である」「天皇はチフス菌である」

- 昭和天皇の「御落胤」譚の浮上

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

信濃毎日新聞 記事

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

雑誌「真相」 表紙画像

「モダンガール」と「パンパン」と「ミッチー」

- 「占領」の現実とは、誰によって表象されたか
検閲による「米軍」の消去
→ 「占領」のメタファーとしての「パンパン」
- 日本の中のアメリカニズムを表象する存在としての「女性」:
 - 1920年代: 「ナオミ」(『痴人の愛』) ← 夫を従属 / 夫に従属
 - 占領期: 路上の「パンパン」 ← 日本人男性に優越 / 米人男性に従属
 - 1958～: 皇太子妃(ご成婚メディア) ← 新しい家族 = 国家モデル
- 「ご成婚」におけるアメリカニズムと皇室の融合: 「平民」と「恋愛」
⇔ 「ミッチー」のパロディ化・商品化、農村での低い熱狂、若者の反感
- メディア・イベントとしての「皇太子成婚」
← テレビの家庭への大衆的普及: 皇室ドラマのテレビ的消費
- 週刊誌 / ワイドショーの台頭と皇室ドラマの消費

基地の街から若者ファッションの街へ

- 米軍施設の分布：

日比谷／神谷町・麻布／
白金・高輪／原宿／田園
調布／横浜・湘南・・・

- 基地県としての神奈川

横須賀・湘南／厚木・相模
原／立川・福生／朝霞・・・

- 基地の街の変容

- 六本木
- 原宿
- 湘南

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

福島鑄郎「GHQ東京占領地図」雄松堂出版

基地の街としての六本木

- 日本軍の街としての麻布(皇居前→麻布→世田谷→相模原)
- 接收による米軍の街への転換(米兵相手のレストラン、バー、ブティック、オンリー用住宅などの拡大)
- 「六本木族」の群れ(麻布の一地区としての六本木から歓楽街としての「六本木・赤坂」への変身) →70年代のディスコ・ブームへ
- テレビ局開設から六本木ヒルズまで

著作権の都合により、下記の図版を
削除しました。

戦後の東京 写真



基地の街としての原宿

- 代々木練兵場からワシントンハイツへ(住宅団地、病院、学校、教会、ショッピングセンター、ゴルフ場、テニスコート…)
- 米軍家族用の店舗、関連業者住宅の表参道での立地(キディランド、オリエンタルバザール、セントラルアパート…)
- ワシントンハイツ返還とオリンピック、NHK移転
- 「外国の匂いのする街」から若者の街へ

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

原宿 俯瞰写真

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

原宿 デペンデント 写真

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

原宿現在の町並み 写真

湘南ビーチと米軍施設

- 基地県としての神奈川(横須賀から辻堂・藤沢まで)
- 基地文化としてのジャズ、サーフィン、ビーチサウンド、売春
- 太陽族映画(「狂った果実」等)から加山雄三、サザンオールスターズまで
- 湘南海岸のマイアミ化志向
湘南＝「バターくさいまでにモダンな海水浴場」へ：「東洋のマイアミ」(朝日 1957)
⇔基地＝ビーチ：マイアミ、フロリダ、カリフォルニア、ハワイ、グアム、沖縄・・・

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

湘南ビーチ 写真

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

米軍施設 写真

軍事的アメリカから消費的アメリカへ

- 占領者としてのアメリカ＝基地(1950年代初頭まで)
基地から滲みだすアメリカ文化⇔目の前の他者としての基地
←六本木・原宿・湘南から沖縄、フィピン、ハワイまでの連続性
- 占領の記憶の消去(1950年代末以降)
基地の記憶を切断した若者文化の街の台頭:六本木、原宿、湘南ビーチ
←六本木・原宿・湘南と沖縄、フィピン等との切り離し
- 1950年代半ばの世界システム(軍事・経済)の再編成
 - 日本本土 : アジアの経済成長センターへ
 - 沖縄・韓国・台湾 : 共産主義に対する軍事的な防波堤
 - 東南アジア : アジアの工場＝日本への原材料資源の供給基地
- 日本本土における軍事的アメリカの後景化
「アメリカ」(アメリカ的なイメージ)を、魅力的な純粋商品として消費すること

「三種の神器／家電」に融合した 「日本」と「アメリカ」

- 「天皇」の身体を依代としたナショナリズムから
「技術」と「経済」を依代としたナショナリズムへの転換
- 「家電」観念の発明
1952年頃まで: カテゴリーとしての「家電」「家庭電化」の不在(「生活改善」)
→ 50年代半ばの出現
- 「三種の神器」観念の大衆社会的転用:
国家統合の象徴から
家庭統合＝モダンホームの象徴へ
- nDK住宅の大衆化

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

耐久消費財の普及状況と世帯規模の変化 グラフ

家庭電化の主体としての主婦（１）

「モダンガール＝商品」から「主婦→家電」へ

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

ナショナル 家電 広告 1937年・1952年・1958年

1937年

1952年

1958年

国家的アイデンティティの主体としての技術者

「アメリカ」のまなざしの下での技術的アイデンティティの構築

アメリカでも折紙つき!

APPROVED
CITY OF LOS ANGELES
FOUNDED 1781
BUILDING AND SAFETY DEPARTMENT

1.5リットル炊き
SR-15C 55ワット
定価 **3,500円**
送料別 送料3,000円迄迄迄

自動炊飯器
富士電機工業株式会社

S.35 1/17 (10) 306

1960年

誇り高きメイドインジャパン

MADE IN JAPAN

松下電器

1962年

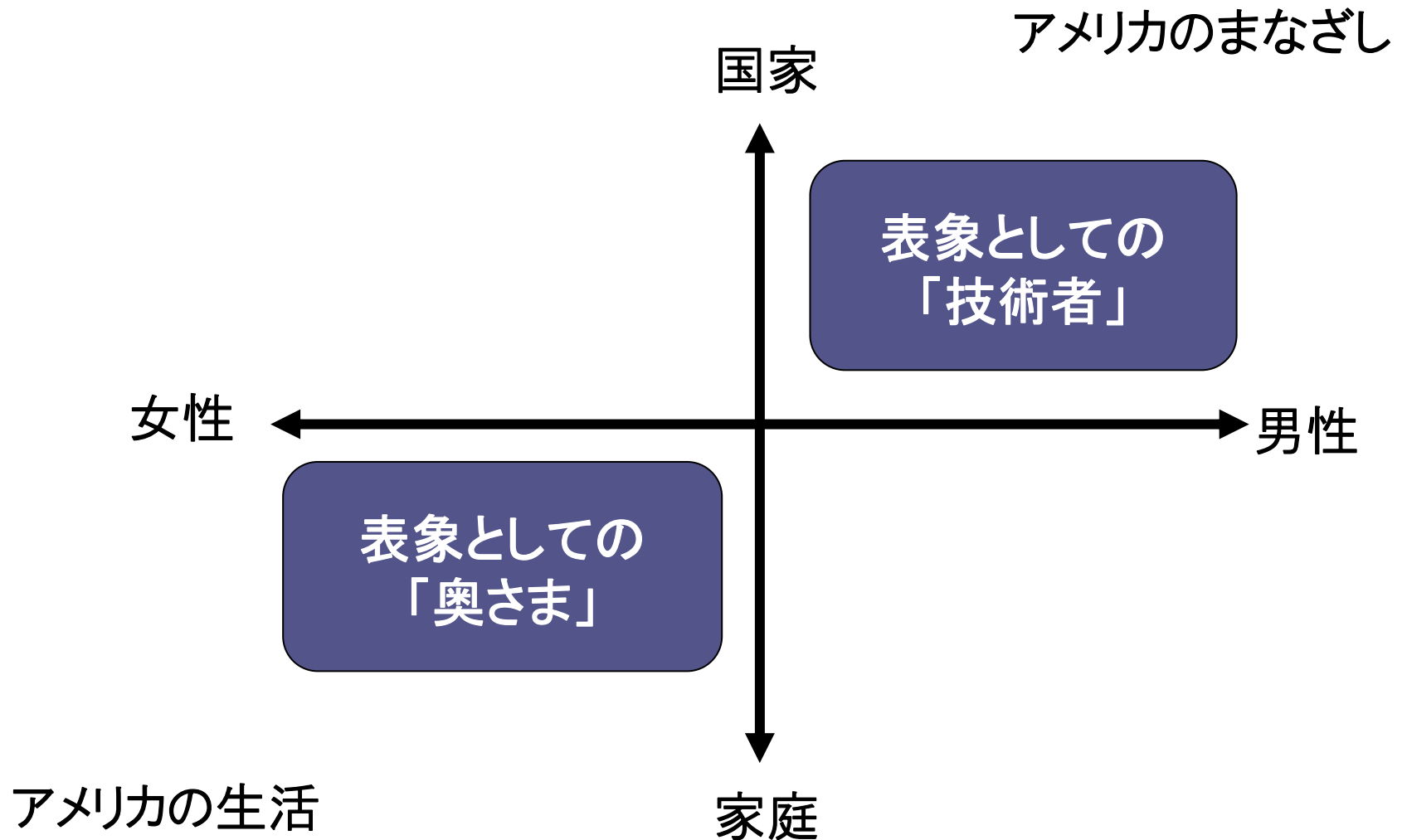
登場! 嵯峨

黄金シリーズ

富士電機工業株式会社

1966年

「家庭電化」を通じた2つの主体表象の構築



まとめにかえて

- 戦前まで：「アメリカニズム」と「天皇制」の交代現象
- 占領期（1945～1952年）：
 - 「マッカーサー」の後景化と「人間天皇」の前景化（占領の消去）
 - 「天皇」をめぐる多様な語り → 「アメリカ」と「天皇」の融合
- ポスト占領期（1950年代後半）：
 - 軍事的な「アメリカ」の後景化（日本本土／沖縄…）
 - 消費可能な他者としての「アメリカ」：
基地の街から若者ファッションの街へ（六本木、原宿、湘南）
- 高度成長期（1960年代～）：
 - 他者としての「アメリカ」を介したナショナルな主体の再構築：
家庭電化の主体としての主婦／高度成長の主体としての技術者
- ポスト戦後社会期（1970年代～）：

補論：戦後日本における「反米」

- 戦前まで：「反米」 ⇔ アジア太平洋における帝国の衝突
← アメリカにおける移民排斥
- 1950年代：共産主義・反基地運動としての「反米」←冷戦激化
 - 朝鮮戦争の勃発と反米武装闘争の激化 ⇔ レッドパージ
 - 反基地闘争の全国的拡大 ← 占領の終了と基地の残存(砂川、沖縄)
: 砂川闘争にける日本軍基地の街と近郊農村の葛藤
- 1960年代：ベ平連と新左翼における「自己否定」と「アジア」
 - 60年安保闘争の盛り上がりと「声なき声の会」
 - ベ平連とアジアのなかの「日本」への問い：鶴見良行の軌跡
- 1990年代：ネオ・ナショナリストたちの「反米」
 - アジアに対する蔑視 ⇔ アジアからの声：「戦後」の問い直し

→「親米／反米」の呪縛をいかに超えていくか？

もっと考えてみたい人に

『親米と反米——戦後日本の政治的無意識』

(岩波新書 2007年)

- 軍事／暴力のアメリカと文化・消費のアメリカの複合性
- 連続的な空間としての冷戦期の東アジア
- アジアにおける帝国主義的権力の連続性

←アジアにおける「アメリカ」の〈力〉とは？

